

ひらつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '87 9月号

9月の行事

9月

1	火	体験学習「巣箱づくり」
5	土	土曜観察会／古文書講読会
12	土	石仏を調べる会
16	水	天体観察会
19	土	古文書講読会
20	日	自然観察会（篠窪付近）
26	土	土曜観察会／石仏を調べる会
27	日	相模川を歩く会

・寄贈品コーナー

24～10/30 "道具の歴史 part 3" 展

・プラネタリウム

5～10/25 "星座って何だ"

10月

3 | 土 | 土曜観察会／古文書講読会

・特別展

13～29 特別展 "小田原北條氏文書"

●体験学習「星座早見を作ろう」

星や星座をさがす時、見える時刻を調べる時に便利な星座早見盤を作り、使ってみます。

日 時 10月24日(土)

15時30分～19時

場 所 博物館科学教室・屋上

参加費 200円(材料代)

申込み 往復はがきに住所氏名年齢等を記入のうえ10月6日までに博物館へ。多数の場合抽選で20名までとさせていただきます。

○暑い夏も楽しい夏休みも終りました。博物館はこの夏沢山の方をお迎えし、うれしい悲鳴をあげたくらいです。サマーセミナーは七国荘で開かれ、突然の雨で濡れそぼったりしましたが、皆さんの熱心なお勉強で、素晴らしい成果を得ました。"大山の信仰と歴史"展にも、日に800人を超える方がお越しになり、9日の講演会には講堂一杯にお集りくださいましたので、用意したプリントがたりなくなり、担当学芸員が走り回って大増刷いたしました。また3階にあるプラネタリウムも日を追って訪ねる方が増え、補助椅子を出す日も少なくありませんでした。皆様のお声を博物館にお寄せくださいますようお願いしたいと思います。またこれからも様々な企画があります。順を追つてお知らせいたします。

○特別展 "大山の信仰と歴史" 図録、ご入用の方は博物館受付にお申し出ください。その外の出版物も次の通りにありますので、紹介いたします。

○図録

大山の信仰と歴史 800円／林の生きものたち 600円／相模川流域の横穴墓 800円／飛驒の民具 300円／街の生きものたち 500円／相模湾の魚と漁撈 500円／神奈川の化石 800円

○湘南植物誌(1・2・3)各 800円／平塚鳥類誌 600円／シダ植物標本目録 500円

○ガイドブック

3四季の星座観察 300円／4地層と化石 400円／5高麗山・湘南平 450円／6平塚の遺跡 500円／7平塚四季の自然 500円

○須賀の民俗 1,500円／平塚の石仏(6) 400円

内海弁次氏と共に歩く、見る、聞く

大山見学会

特別展 "大山の信仰と歴史"
関連行事として開催される

8月12日(水)大山ケーブル駅に集合。10時出発して茶湯寺にゆき八意思兼神社に寄り、ここから女坂を通って宝珠山来迎院、そして大山寺に詣ってお昼。午後阿夫利神社に至る全5時間の行程。講師に大山寺信徒総代の内海弁次氏をお願いした。集まった方々は平塚はもとより遠くは横浜、藤沢、秦野、隣りの大磯と地元大山までの21名。お顔なじみの方もいらっしゃるし、先の講演会にお越しの方もいらして賑やかに出発した。以下はその隨行記である。

玉垣で結界された参道のおれんじ色の敷石をふむと、そこに大山こまの敷石がはめこまれている。石段の数をしるしたものだそうだ。10分程で茶湯寺に着く。参道を左に折れた小橋の奥、六体のお地蔵さまに迎えられて本堂に上ると、須弥壇にお釈迦様が横になっていらした。寝ていらっしゃるので寝釈迦様一涅槃佛である。この形の仏像はあと京にご一体のみと聞く。丈短かく大きなおみ足が行儀よく重ねられているのが何とも愛らしい。お人が亡くなつて101日目にお詣りするのだそうだ。101日目はこの世と靈界との境い目に当る日なので、お寺に詣って一服いただき帰つて仏に捧げるのだという。今度は参道を右に入り八意思兼神社に向う。思い兼ねの兼が大工指物師の使うさしがねに似ているとあって、その筋のお参りが多いそうだ。ここで内海氏から「これより上のお堂を建てた木材は、どうやって運んだか」と出題された。車に積んで背にしょって、この先は曳いて運んだ。その道を曳地道といつた。

かつてはこの先女人禁制が、今は女坂男坂にわかれれる。右は胸突く石段々の男坂、左は木陰やさしい女坂である。勿論女坂をゆくのだが、かなり

急で丈高い石段もあつたりしたので、昔もきつい女人が居たらしいと嘆きあつた。遅れがちな方には小川学芸員がつき添つてゐる。途中、弘法さまが杖で突いた清水をいただき、弘法様が御手の瓜で剪られた石仏さまを押む。苔むした大岩に刻まれているのだが、大層美男でいらした。大きな菩提樹があったのはこの先だったろうか。お釈迦様が悟りをひらかれた木とは少し違う種だそうだ。葉っぱが面白い。葉の裏に一本の葉脈が伸びて先に5ミリほどの実が鉛なりになつてゐる。宝珠山



来迎院はそこからじきだった。昔の茶湯寺である。その脇に朱が大分はげちょろけたくりから尊のお堂があった。うしろにのけぞつてゐるので危うしく覗きこんだら、堂裏で突っかい棒が力んでいた。大山最古の建物の由。その先の半ば土に埋れた石柱は「御手長」の碑である。神さまにおときを差し上げること、即ちご馳走することを言うのだそうだ。盗癖のある人を指すのは現世横行の言葉。11時20分大山寺につく。現在のお堂は89代手中明王太郎と大山宮大工が、力を併せて造営し

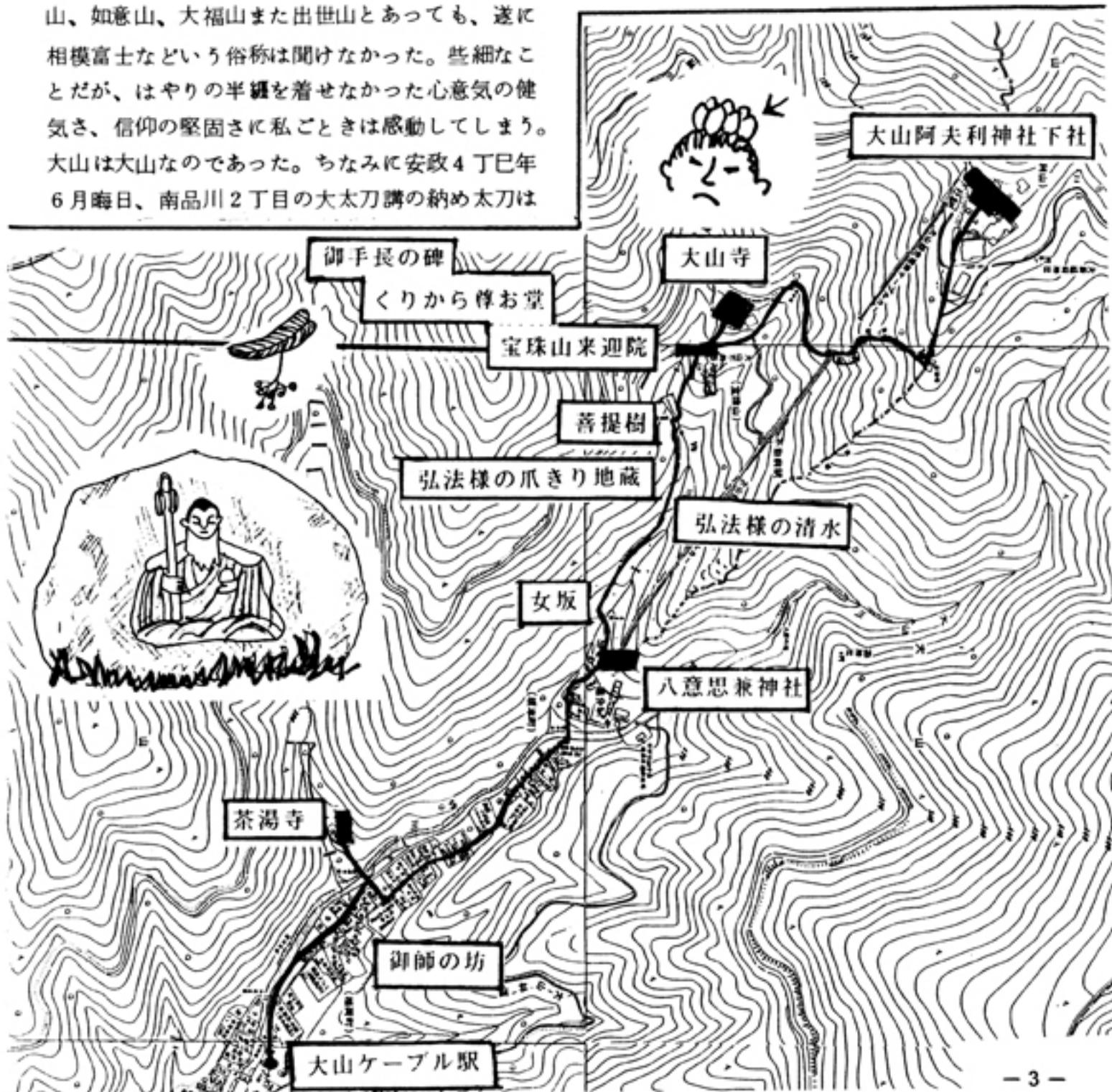
た。よって柱頭の獅子頭の胸に名が刻まれた。その誇りはいかばかりか。すべて檍材によつたといふのだから難儀なことであつたに違ひない。雨風にうたれさらされて白く朽ちてはいても、露堂々の社殿が胸をうつ。鉄不動を拝観した。鉄不動おつむりの蓮華台は、何人といえど教化し救済してこの上に坐らせたいご本願を示している。ここで昼食。午後は13時10分の出発。

道はじき朱の橋に至りつづら折りの山道になる。"山さむしこころの底や水の月"と句碑があり橋の名は無明橋とあつた。

いよいよ大山阿夫利神社である。詳細は他にゆずつて、一寸賑やかな商店街なら〇〇銀座、それが山なら××富士が相場なのに、この大山、雨降山、如意山、大福山また出世山とあっても、遂に相模富士などいう俗称は聞けなかつた。些細なことだが、はやりの半纏を着せなかつた心意気の健気さ、信仰の堅固さに私ごときは感動してしまう。大山は大山なのであつた。ちなみに安政4丁巳年6月晦日、南品川2丁目の大太刀講の納め太刀は

昭和36年8月2日に修繕されている。安政4丁巳年は1857年だから、130年3代が受けついでいることになる。信仰は生きているのだ。ご神泉のお水も美味だつた。上社にのぼる木戸のところで記念撮影をし、散会した。時丁度15時。

久々の山歩きで一寸つかれたが、大山の歴史を立体的につかめた気がする。歩いてみなければわからぬことがあるんですね。我々と同じ立場で話して下さつたのでとても興深く聞けた。今度は家族中で来よう。我田引水かも知れぬが、参加した方のお口から聞けたのも、企画した側には嬉しく心強い。かくして、この夏の特別展"大山の信仰と歴史"は、同名の講演会、大山見学会2つの関連行事をもつて、無事に終了したのである。(和田)



9月23日 部分日食が見られます

秋分の日に金環日食が起ります、とは言っても平塚ではなく、沖縄での話ですが。

平塚でもこの日は1985年5月20日以来2年4か月ぶりに部分日食を見ることが出来ます。ちょうどお昼時に起きますから観察しやすいと思われます。

部分食の始まりは午前10時4分、部分食の最大は午前11時30分、部分食の終了は午後0時56分です。一番欠ける時、太陽の約56%が月にかくされてしまいます。

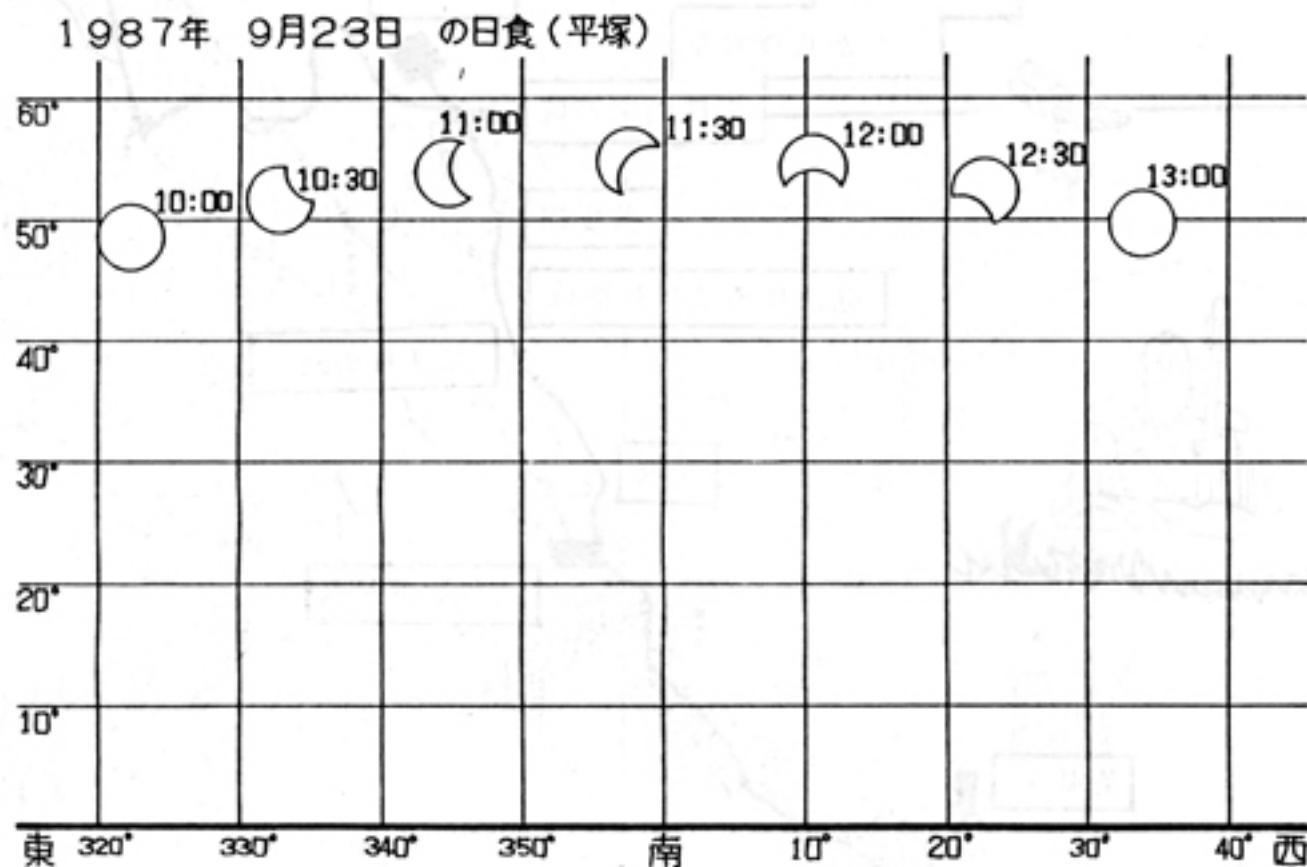
部分食が始まる時、太陽がどこから欠けて行くのかを知っておくと、欠け始め(接触)を見逃さずになります。下図に日食が進行するようすを30分きざみで示しました。この図からもわかるとおり、太陽を正面から見たとき、右上から欠けて

いきます。

木もれ日の形を見ると、欠けた太陽の形をしています。注意して観察してみましょう。

この日、沖縄では細いリングのような形の太陽を見ることが出来ます。太陽の前に月が入り込み、日食を起こすのですが、地球から見た見かけの月の大きさが見かけの太陽の大きさより小さいため、月が太陽をかくし切れず、まわりから太陽がのぞく日食となります。逆に月の見かけの大きさが太陽の見かけの大きさより大きいと、皆既日食となります。

観察するときは、濃いサングラスを重ねたり、現像済みの白黒フィルム(カラーは危険です)の真っ黒な部分を重ねたりして太陽の光を弱めて、短かい時間で見るようしましょう。(属)



Vol. 12 No. 6 通巻 133 号 印刷 平塚市総務部総務課文書係 ○3,500
「はくぶつかん」 発行 平塚市博物館 〒254 平塚市浅間町12-41 Tel. 33-5111